

対象国の条件:

研修コース番号:201984789-J002

案件番号:201984789

主分野課題:環境管理/大気汚染・酸性雨

副分野課題:

使用言語:英語

案件概要

途上国における現在及び将来の人健康や動植物に対する大気汚染物質による悪影響を抑制するため、ローカル・国・国境を越えた地域などあらゆるレベルでの適切な大気環境管理が必要となっている。本研修は、日本が保有する知見・経験を活用し、大気汚染物質の大気中濃度のモニタリングや、対策検討の前提となる排出インベントリの整備、モデルを活用した対策効果の予測など、科学的手法に基づく大気環境管理の能力構築を図るもの。

目標/成果	対象組織/人材
<p>【案件目標】 研修員が本邦研修で習得した知識や技術を活用することにより、派遣国のローカルな又は国レベル、あるいは国境を越える地域の大気環境管理能力の向上に寄与する提案が、アクションプランとして策定されるため、以下を達成する。</p> <p>【成果】 1. 大気環境管理の全体像について理解する。 2. さまざまな大気汚染物質のモニタリングの技術及び体制構築の要点について理解し、自らの国・地域への適用可能性について検討する。 3. さまざまな大気汚染物質の排出源及び排出量の把握方法の要点について理解し、自らの国・地域への適用可能性について検討する。 4. 国や地域の実施可能な大気環境管理アクションプランを作成できる。</p>	<p>【対象組織】 大気質管理を担う中央政府・地方自治体・研究機関</p> <p>【対象人材】 研修員は、以下の資格を満たすことを要件とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 政府による推薦を受ける ・ 中央又は地方の行政機関で大気環境行政に携わる中堅職員 ・ 実務経験3年以上 ・ 大学卒業又は同等の技術的資格を持つ者 ・ 英語の読み書きとコミュニケーションの能力を十分有する者

内容	本邦研修期間	2019/8-2019/9
<p>【事前活動】 自国の大気環境管理の現状及び課題についてカントリーレポートを作成。</p>		
<p>【本邦研修】 以下の内容の講義、実習、視察を行う。</p> <p>(1) 日本の大気環境政策、固定発生源・移動発生源対策の枠組み、大気汚染物質の環境影響・環境基準 (2) 大気測定概論、大気測定技術及びサンプリング（実習を含む）、大気環境モニタリングの体系、自治体におけるモニタリング体制、精度管理・精度保証、モニタリングデータの評価・解析、測定局等の見学 (3) 大気汚染物質の排出源の概要、排出インベントリの構築手法、拡散モデルの特徴、大気モデリングによる輸送・化学プロセスの表現、輸送・化学モデルの特徴と選択、大気モデリングによる対策効果の検証、排出インベントリ構築の実習、大気モデリング実践 (4) アクションプランの作成・発表</p> <p>【事後活動】 事務所における帰国報告会の開催、アクションプランの組織内精査、帰国後半年以内のプログレスレポートの提出</p> <p>※なお、本研修では、研修を通じた「知識共創（Knowledge Co-creation）」の実現を図るために、アクティブラーニングメソッドを導入予定です。</p>	<p>担当課題部</p>	<p>地球環境部</p>
	<p>所管国内機関</p>	<p>JICA東京（経済環境）</p>
	<p>関係省庁</p>	<p>環境省</p>
	<p>実施年度</p>	<p>2019～2021</p>

<p>主要協力機関</p>	<p>調整中</p>
<p>特記事項及びホームページ</p>	<p>更新に当たり、平成24年度まで実施中の「大気保全行政」の内容を見直し・改善。</p>